平成 28 年度の学校評価目標

1　建学の精神

不言実行　あてになる人間

(1)　「入れる学校」から「入りたい学校」へ

ア　普通科と工業科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育

イ　一貫コースを中心とした高大連携教育

ウ　建学の精神「不言実行　あてになる人間」の具現化

エ　豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現

オ　学習に偏ることなく、特別活動や部活動を通しての「徳・体」の錬成

カ　校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外部	(1) 募集定員を確保する。 (2) 女子生徒数増をめざす。 (3) 中部大学との「高大一貫教育」の発信 (4) 普通科、機械電気システム科の各コースの特徴をさらに浸透させる。	(1) 中学校訪問において、中部大学と連携して「高大一貫教育」をアピールする。 (2) 学校見学会を充実させ、中学生の満足度を上げる企画を実施する。 (3) 特待生、スポーツ奨学生を含めた成績優秀者の募集に努めるとともに、女子生徒数を増やす方策を考える。 (4) 部活動の練習会をはじめ、元気で魅力ある学校をPRする。	(1) 大学広報との連携を図り、高大一貫教育やESD教育の推進をアピールし、本校の認知度を高め、生徒数の確保をめざす。 (2) 本校の普通科、機械電気システム科の特色を示し、中学生とその保護者に対して、本校の理解を高める。 (3) 渉外部と部活動顧問との連携を図り、中学校訪問や学校見学会で、より本校の魅力を浸透させる努力をする。 (4) HP、中学校向け部活動練習会の開催等で、活力ある本校の教育活動を広く発信する。
総務部	(1) 平成29年度修学旅行の実施に向けての取り組み (2) 新入生オリエンテーションの検討 (3) PTA総会・中部大学見学会・地区懇談会の充実 (4) 新しい形での避難訓練の検討 (5) 情報メール配信の内容の検討と、被登録者への対応 (6) 朝読書で自分が準備した本を読む生徒を増やす	(1) 平成29年度沖縄修学旅行実施に向けて、関係部署で、コースを検討し、具体化する。 (2) 平成29年度以降の宿泊も含めて検討する。 (3) 行事毎にアンケートを実施し次年度に生かしたい。行事は担任が出席しやすい期日を設定する。 (4) 避難時間の重要性を意識させ、10分以内の集合完了を目指す。 (5) 情報メール配信の内容を調整するとともに、未登録者に対する、情報配信の仕方を検討する。 (6) 自分で本を準備した生徒の調査と、「自分が薦める本」の紹介等を行う。	(1) 異文化・平和・ESDの視点が、修学旅行の事前学習に生かせれるよう準備する。 (2) 効率よいオリエンテーションの内容を検討する。 (3) 地区懇談会は、地区の特色を生かせる内容を検討する。 (4) 予備日の雨天時でも対応できる避難訓練の計画を考える。 (5) 携帯電話の機種変更を行う保護者があり、メールが確実に届いているかの確認を行うとともに、配信量増加による混乱がおきないよう注意する。
教務部	(1) 新校務システムへのスムーズな移行と効率的な利用の定着 (2) 「分かる授業」「履修の定着」「家庭学習の励行」への取り組みの推進 (3) ICT教育対応に向けての準備検討	(1) 夏季休業中を利用して、職員に新システム理解を徹底する。 (2) 教育課程・学年運営・教育相談各委員会の情報交換の場を積極的に活用し、生徒理解の場を設ける。 (3) 電子黒板利用者との意見交換会や、外部のICT教育に関する研修会への参加、報告会を実施する。	(1) 新システムの十分な説明と、フォロー体制を強化する。そのための各分掌等との代表者会を重ねて開催する。 (2) 各委員会が情報交換で終わることなく、継続指導と、意見交換の場になるようにする。また、履修に対する段階的な指導を効果的に行う。 (3) さまざまな研修会で得た情報を、共有化できるよう資料作成を行い、教員の資質向上に役立てる。
生徒指導部	生活規律の向上と良好な学習環境の確保に努める。 (1) 身だしなみ指導の徹底と生活規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める。 (3) SNS利用に関するモラル指導に努める。	(1) 問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、関係者との連携を強化する。 (2) 問題行動を未然に防ぐ施策を検討する。 (3) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (4) いじめによる問題行動を防ぐため、SNS利用指導とともに細やかな指導姿勢で臨む。	(1) 生徒に関する問題点を関係者で共有し、初期対応の迅速化を図る。 (2) 問題行動を未然に防ぐために、日頃から生活規律向上のための意識づけを図る。 (3) PTAによる街頭指導をサポートする。各種講習会をはじめとする交通安全指導の充実を図る。 (4) いじめの早期発見と早期指導を行うために、校内連携を迅速に行う。
特活部	(1) 全員参加型の生徒会行事を継承し、実施内容の質と魅力を高めるとともに、地域へのアピールを行う。 (2) 部活動を物心両面で支援する。 (3) 教育相談を充実させ学年・分掌との連携を図る。	(1) 文化祭の計画案を早期に提示し、各クラスの企画案の調整を図るとともに、地域への発信を図る。 (2) 広報部と協力し、生徒の活躍を発信する広報活動を活発化させる。 (3) 学校カウンセラーによる教職員に対する現職研修を定期的に行い、教員の生徒理解の手法の向上を図る。	(1) 文化祭は前年度後期から準備し、新年度に円滑に引き継ぎを行う。 (2) 生徒会執行部と広報部が連携し、生徒会新聞の発刊を目指す。 (3) 教員の資質向上を図るため、研修部と連携し、教育相談に関する研修会を、学期に1度は計画する。
研修部	(1) 研修会の充実 (2) 現職教育の模索 (3) 学校生活における意識調査の実施 (4)「学校評価に関する調査」の実施 (5) ESD活動の展開	(1) 初任者研修会(5回)、初任者研究授業(2回)を実施。 (2) ESDに関する講演会を実施する。ESD以外の教員対象の講演会も検討する。 (3) 学校生活意識調査・学校評価（保護者対象）の実施と分析。 (4) ESD活動へより積極的に参加できる協力体制	(1) 初任者及び教員の資質向上に各種研修会を設定する。 (2) ESDに関する講演会・アンケートを実施し、年度比較を行う。 (3) 生徒・保護者の意見をできるだけ多く収集し、本校の学校力の向上を図る。 (4) 教科内・教科外のESD活動について、多く

		を構築する。	の教員の協力を得て、ESD学園としての取組の充実を図る。
進路指導部	自分の興味や適性を早期に自覚させ、主体的に自らの将来の目標を設定させることで、適切な進路を確保する。	(1) 中部大学との連携をさらに強化し、生徒の中部大学への興味・関心が強まるよう機会・環境を整える。 (2) 個人の希望・適性にあった企業を選択できるような指導を心がけ、入社後も簡単にやめない指導を強化する。 (3) 普通科と連携し、学習環境の整備、具体的指導の充実に努める。	(1) 中部大学の理解と関心を高めるために、行事の開催や資料設置の充実を図る。 (2) 1・2年生からキャリア教育の充実を図る。 (3) 情報の共有化や指導方法の一貫化など、学年間や担任間で温度差を生じないよう連絡を密にする。
普通科	(1) 3ヵ年の学習計画に基づき学習習慣を確立し、学習先頭集団を育て、国公立大学の合格者を増加させる。 (2)中部大学への進学希望者を増やし、大学を4年間で卒業できる学力をつける。 (3) コース毎に進路目標を早期に設定し、豊かな人間性を養いつつ、きめ細やかな進路指導に繋げる。	(1) 英語力強化を普通科共通の目標とし、英語検定の合格を学習意欲の向上に繋げる指導を継続する。併せて、コース毎に必要な学力の確実な定着を図る。 (2) 自習室利用の増加や家庭学習の促進などの、学習支援及び学習意欲向上の方策を続ける。 (3) 各コースの特徴を生かすために進路研究会を継続し、中部大学の理解及び連携に努める。	(1) 英検受験義務化を継続し、英語を軸に新規模試導入等で、各コース文理別に学力向上に取り組む。特進コース以外の生徒にも学習合宿や校外模試受験を促す。 (2) 平日夜や長期休業中の自習室の運営を続け、帰りの小テストや学習課題掲示見える化などで、家庭学習意欲の向上を図る。 (3) コース別進路研究会で、情報の共有化を行い、中部大学を中核とした進路指導の効率化を図る。また、1年生対象で文化行事(ミュージカル鑑賞)を行う。
機械電気システム科	(1) 資格・検定試験の取組と生徒の能力の向上を図る。 (2) 対外的な活動の拡充と実績の向上を図る。 (3) 機械電気システム科としての特徴づくりと立案を図る。 (4) 専門課程を学ぶ意義を理解かせるとともに、進路意識の高揚を図る。	(1) ジュニアマイスター顕彰取得率の増加や、技能士など社会的評価の高い試験の合格実績の向上を図る。 (2) 各種競技会等への参加に向けての検討と実施に向けた準備を図る。 (3) SPHの認定を目指した指導体制の見直しと確立を図る。 (4) 生徒・保護者等を取り込んだ広報活動の立案と取組を行う。	(1) 資格試験を考慮した授業内容の工夫や、授業効率の工夫、設備の充実を図る。 (2) 各種競技会の早期情報収集を図り、研究や準備を行う。 (3) 他校の認定資料を参考にし、本校への対応等を研究することを学年全体で検討する。 (4) 機械電気システム科の活動の情報発信や情報提供を地道に行っていく。
一年生	(1) 高校生としての自覚を持たせ、高校生活への円滑な導入を促す。 (2)学習の基礎内容の理解と、各自が立てた実現可能な目標の達成に向けて努力させる。 (3) 課外活動に積極的に取り組ませ、学校生活への満足度を上げる。 (4) 進路を意識した自己分析をさせ、進路実現にむけた継続的な取り組みをさせる。	(1) HRや集会を通じて、マナーの意識を高めるとともに自己管理能力の向上を図る。 (2) 普通科は英検、機械電気システム科は資格取得の目標を立てさせ、積極的に取り組ませる。 (3) 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動、ESD活動などの活動に積極的に取り組むことで、学校生活での充実感や満足度を高める。 (4) 自己理解を促進させ、進路目標を設定することで、積極的に自己研鑽を高める取り組みをさせる。	(1) 生徒に主体的な活動や交流の場面を作ることで、社会性を高めるとともに、生徒の良い活動の評価を伝える機会を多くし、生徒に自信を付けさせる。 (2) 成績向上に向けての行動を積極的に行わせるとともに、進路に直結する資格取得に対して、意義や必要性を理解させ行動させ、結果を出させる。 (3) 生徒の学校生活での活動に対して、援助や情報提供を積極的に行い、支援する。 (4) 生徒にPDCAサイクルの考え方を意識させ、家庭学習を含めた学習への具体的な取組に、自分自身が率先して行動できるよう援助する。
二年生	(1) 学校生活で中心的役割が果たせるよう、生徒の意識向上と行動力を高める。 (2) 進路目標を早期に持たせ基礎学力を高める。 (3) 各コース、各科に沿ったきめ細かい指導を行い、積極的な資格取得を目指す。	(1) 全校集会、学年集会、HRを通して、生活指導を繰り返し行う。 (2) 資格取得の動機付けと進路目標を持たせることで自ら学ぶ姿勢の定着と意欲の向上につながるよう指導する。 (3) 学年団、教科担当、家庭との連絡を密に行い、生徒の変化を見逃さない指導を行う。	(1) 学年会・朝礼後の時間により、教員間で指導の温度差が生じないよう連絡を密にする。 (2) 進路目標を具体的に持たせるよう、HRで時期に応じた情報の提供と指導を行う。 (3) 各コース、各科に沿ったきめ細かい指導を行う。普通科においては、帰りの英単語小テストが英検の上級取得につながる事を理解させ、積極的に取り組ませる。
三年生	(1) 最上級生としての自覚や社会人を意識した行動がとれるようにする。 (2) 主体的に進路決定をさせ、それに向けた努力をさせる。 (3) コース、系に沿ったきめ細かな指導と、情報の共有化を図る。	(1) 全校集会、学年集会、HRを通して、講話の中で生活指導を繰り返し行い自覚させる。 (2) 4月当初より、中部大学をはじめとした進学に関する情報を提供し、自主的な取り組みを促す。 (3) 学年団、教科担当、家庭との連絡を密に行い、生徒の変化を見逃さない指導を行う。	(1) 教員間で指導の温度差が生じないためにも、学年会や朝礼後の時間を活用し、連絡を密に行う。 (2) 進路目標を実現するために、HRで正確な情報の提供を行う。特に、複雑な受験の流れを理解させ、自ら学ぶ姿勢の定着と意欲の向上につながるよう指導する。 (3) 大学受験や就職試験に対して、生徒の精神的・肉体的な負担は大きいので、精一杯の力を出すためにも、明確な計画を立て、どのような状況にも対応できるよう指導を行う。